

彙報

第一佛敎學研究室

□十月十五日午後一時より研究室例會を開催す。出席教授は舟橋、大須賀、稻葉、金子、廣瀨、上杉、梶浦の諸氏并に助手。

學會説立、書籍購入、所藏書籍貸借、研究室移動等について協議する所あり。午後三時散會す。

□往生論註宗祖朱點本の模寫は愈々近日中に金九經君に書寫を依頼するこゝになれり。(物部)

第二佛敎學研究室

□去る十月二十二日午後三時より第七教室にて例會を開く。當番講師左の如し。

一、大乘莊嚴寶王經のこゝ 櫻部 文鏡氏
一、般若心經に就て 教授 鈴木 大拙氏
猶、當日の聽衆、赤沼、泉兩教授外十數名なりき。

人文學研究室

□六月十三日午後三時から十三教室で大谷大學史文會例會を開催した神田喜一郎教授は「奈良時代に傳來

の刊本なき今日その先鞭をつけたこゝは大に多きせねばならぬ、この點から本書の出現は至難なる佛敎研究に一大光明を放つたもので佛敎初學者の福音書たるを失はぬ、しかして本書は総合的に「經典全體としての概論を下せるものであるから」その取材の如きも成るべく一般のものを案じて特殊のものを避け、その叙説にあつても専ら分明平易を旨として考證論議にわたらず一讀何人にも容易に經典そのものに對する普通の知識を了得せしめむこゝを期したものである。この佛敎研究の指針たる好著を佛敎研究法と共に推薦して置く。(菊版天金。正價三圓。京都市大宮通七條上、生田書店發行)(高柳)

せる漢籍に就いて」の演題のもこに二時間に亘る講演をせられ古代の研究には圖書目録の必要なるここと及び圖書目録を作るこことそれ自身がすでに學界への貢獻であるこことを論ぜられた講演後茶話會を催した尙當日は(幕末より明治時代に亘る大谷派史料の展觀があつた中にも北海道開拓一條手續や廢佛棄釋の史料の如きは甚だ珍しいものである。

□九月廿九日午后三時から五時まで第八教室で史文會例會を開いた橋川正教授は今夏の史料探索旅行について述べられた時間は約二時間演題は「北陸より山形まで」。(丹羽)

哲學研究室報

□本研究に於ては本誌前號にも記載せる通り學會を創設しその發會式を兼ねて第一回例會を六月十一日午后六時より第五教室に開く、當日は本學教授、職員學生多數の來會あり講演後會議室に於いて西田教授を中心にして宗教、哲學の問題につき談話會をひらき十時閉會せり當日講演左の如し。

宗教哲學につきて

文學博士 西田 教授

□九月三十日午后六時より本用例會を左の如く開き、木場、安富、寺本、諸教授の參會ありたり。聖徳太子の思想について 井上 教授

最近佛敎研究論文一覽

□十月二十三日午后六時より本月例會を左の如く開き、務臺、木場、若栗、金子諸教授沼波主幹、其他學生多數の參會ありたり。

カントの transzendentaler Gegenstand = x - 1 - affekt
herden について 文學士 木村 教授

□尙本學教授安富成中氏は社會學研究の爲め佛獨に留學を命ぜられ十一月下旬故國を出帆の都合にて、その後任として文學士五十嵐氏就任せられ社會學科を擔任せられるこことなつた。ここに兩教授の送迎を附記するに當つて兩教授の多幸に本學社會學科の前途を祝するものである。(達)

最近佛敎研究論文一覽 (大正十三年自五月至九月)

(A) 源 典

洞上安心起行文	岡田 宣法	第一義	二六〇六
數異鈔の體制についての私見	梅原眞隆	龍大論叢	二五七六
治病大小權實異目略註	小林 一郎	法華	一〇四
撰時鈔抄出略註	小林 一郎	法華	一〇七八九
傳通記と觀門要義鈔	今岡 達音	佛敎學	一〇五
往生傳に就いて	小酒井儀三	歴史と地理	一四〇一
祕密經典翻譯史	塚田 洪憲	第一義	二八〇五、六、七